

今回、青年使節団の一員として **Pacific Economic Cooperation Council (PECC)** の学生プログラム、国際総会に参加をして、二つの大きな収穫があった。

一つは、**PECC** 国際総会に参加をしてアジア太平洋地域各国から集った代表者による地域経済協力の議論を学べたこと、また発表者から直接話を伺えたことだ。**PECC** 国際総会には、大学・研究機関だけでなく、政府や、民間企業など幅広い分野と国からの参加があった。会議の各セッションでは、アジア太平洋地域の地域協力や経済問題について議論が行われ、特に私にとっては、地域金融協力や地域経済協力のテーマが印象的だった。大学でこれまで学んだ内容が、国際会議の場で実際に議論されていることに感銘を受け、また発表者間の自由闊達な議論から多くのことを学んだ。休憩中には、タイ銀行（中央銀行）の **Pariwat Kanithasen** 氏やアジア開発銀行研究所の吉野直行所長など発表者の方々と直接話しする機会に恵まれ、第一線で活躍する専門家からアジア太平洋の地域協力枠組み政策形成について知見を伺うことができた。

二つめは、青年使節団メンバーとのワークショップを通じた共同作業の経験だ。学生プログラムには、中国、日本、ペルー、メキシコなど、全 9 カ国・地域から約 40 名の学生が参加をした。ワークショップでは 5 つのグループに分かれ、**Cross Border Education**（国境を越えた教育システム）を促進するための政策を議論した。その後、私は代表チームの一員として、提言レポートを作成する作業に取り組み、教育サービス市場を活用した学生・大学・教育者の国際的流動性を高めるアイデアをまとめ、最終成果を **PECC** の常任委員会で各国代表を前に発表を行った。限られた時間の中だったが、各国から集まった学生たちと、柔軟な思考と強いリーダーシップを発揮して、共同作業に取り組めたことが何より得難い経験となった。

この経験を生かして、残りの大学院生活ではアジア太平洋の地域協力について研究を深めていきたい。